

## B-11 合成繊維布の糊付けに関する研究 (第3報)

長崎大教育 ○石崎 ダイ  
活水女短大 岩原 シゲ

1. 前報までに合繊布は洗浄後糊付けすることにより、防汚性、洗浄性の向上に寄与するたことが明らかになったが(洗浄性は糊種により相違あり)これまでの濃度では、布の剛度が増し風合を害するので、さらに低濃度で糊付けし、各試布に最適の糊料と濃度を検討した結果を報告する。また柔軟剤の配合の影響も若干報告する。

2. 試布： $F_1$  テトロン、 $F_2$  カシミロン、 $F_3$  アセテート、 $F_4$  ナイロン。糊料： $D_1$  CMC、 $D_2$  デキストリン、 $D_3$  PVA、 $D_4$  キトーサン、濃度： $C_1$  0.01%、 $C_2$  0.03%、 $C_3$  0.04%、試布の精練法、剛軟度、防しわ度の測定法は前報の通りである。ナイロンには CMC(0.01%)に柔軟剤を 100:0, 80:20, 60:40, 40:60, 20:80, 0:100の配合で濃度(柔軟剤)を0.05%, 0.1%, 0.5%, 1.0%のものにつき糊付をおこなった。

3. 剛軟度、防しわ度について、テトロンでは原布より精練布が両性能とも低下し、糊付布では  $D_1D_2$  の0.01% PVA の0.03%が適す。カシミロンは原布、精練布間に差はなく、剛軟度は  $D_1D_2D_4$  の0.01%が原布に近く、防しわ度では  $D_2D_3$  の0.01, 0.03%がよい。アセテートは原布より精練布が両性能とも著しく低下するが糊付布は  $D_1D_4$  の0.03%が剛軟度は原布に近く、防しわ性はいずれも原布より悪い。ナイロンは原布より精練布が両性能とも増大し、糊付布はさらに剛い。PVA の0.01%が両性能とも原布に近い。CMC に柔軟剤を配合した糊付では防汚性、洗浄性ともに  $D_1$  単味より向上した。